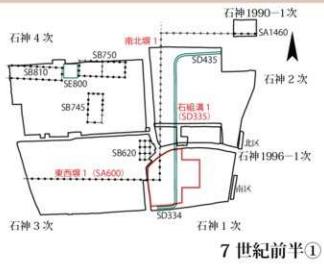


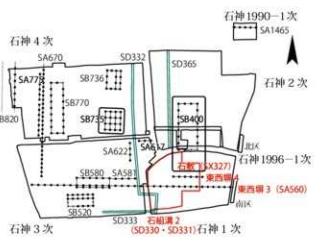
石神遺跡の第1次調査区を再発掘し、新たに7世紀の各時期の区画網を検出しました。特に、石組溝と一緒に機能したと考えられる区画網を検出し、7世紀前半の石神遺跡の区画網南限を初めて確認しました。7世紀を通じて、石神遺跡全体の構造や変遷を考えるうえでも重要な成果といえます。

石神遺跡は、漏刻（水時計）跡である水落遺跡の北側、飛鳥寺の北西に位置します。今回の調査区はその東南部にあたり、明治35・36年（1902・1903）に石造物（須弥山・石人像）が出土した水田です。さらに昭和11年（1936）には東大帝室博物館の石田茂作が調査をおこない、石組溝や石敷を発見しました。昭和56年（1981）に、奈良文化財研究所は石神遺跡第1次調査として水田全面を調査し、掘立柱建物や塀などの遺構を新たに検出しました。

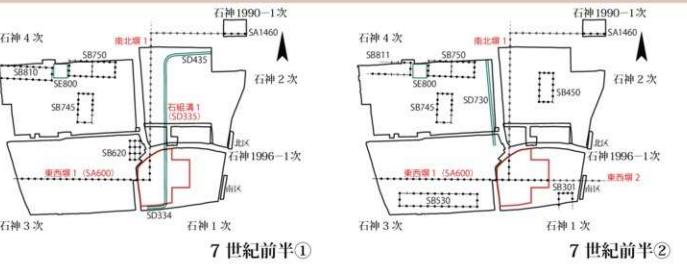
その後、周辺の調査が進むなかで、第1次調査区内に未検出の遺構が続いていることがあきらかとなり、今回の調査はこれら未検出遺構の確認を目的として、水田の西半を中心に部分的に再発掘をおこないました。



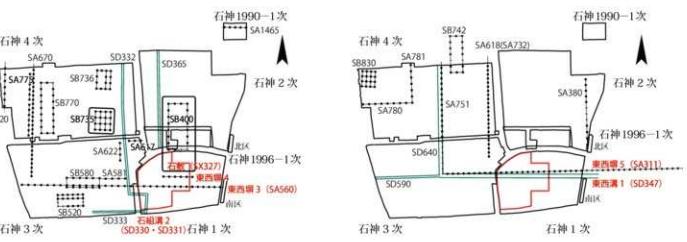
7世紀前半①



7世紀中葉～後半



7世紀前半②



7世紀後半～末期

■ 今回の調査区

■ 1m

石組溝1 昭和11年に発見された東へクランクする石組溝。

南北約21m分を再検出しました。区画網に併行する7世紀前半の溝と考えられます。

東西堀1・南北堀1 7世紀前半の石神遺跡東南隅の区画施設。西から続く東西堀1が北折して南北堀1になります。石組溝1に併行し、調査区北方で東へ折れると推定されます。

東西堀2 東西堀1から東へ延びる7世紀前半の区画堀。石組溝1の側石を壊しており、東への区画拡張を示します。

石組溝2 昭和11年に発見された7世紀中葉から後半までの石組溝。L字に折れ曲がり、西側の調査区で北折します。構築方法などの差異から、石組溝1より新しい遺構とみられます。

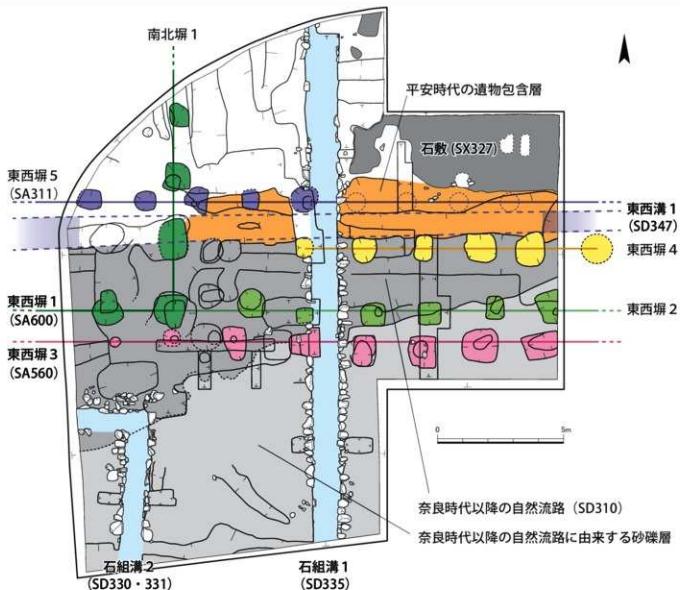
東西堀3 7世紀中葉から後半までの石神遺跡南限の区画堀で、調査区を横断し、さらに東へ続きます。

東西堀5 7世紀後半から末までの石神遺跡南限の区画堀。後世の堆積物を取り除き、5基の柱穴を新たに検出しました。

その他の遺構 石敷や東西堀4（7世紀中葉から後半まで）、東西溝1（7世紀後半から末まで）、自然流路（奈良時代以降）を確認しました。



調査区全景（南から）
※7世紀前半の石神遺跡東南隅の区画堀と併行する石組溝1



遺構平面図（1/150）

※7世紀前半の石神遺跡の区画「隣」を初めて確認した（東西堀1・南北堀1）



調査区と水落遺跡（北東から）
※調査区は漏刻跡である水落遺跡の北東に位置する



2時期の石組溝（南西から）
※写真手前が石組溝2、写真奥が石組溝1



側石の立て方や底石の有無など構築方法が異なる石組溝
※左写真が石組溝2（南西から）、右写真が石組溝1（北西から）

石神遺跡第1次調査区の再発掘
(飛鳥藤原第214次調査現地見学会資料)
2024.3.2



調査区全景（南東から）
※周囲の水田は石神遺跡 耳成山と鶴山を遠望できる



南を限る複数時期の東西堀（東から）
※いずれも石組溝1の側石を壊す（写真左から東西堀3・2・5）



調査位置図
※石神第1次調査区の西半が調査対象

独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化文化財研究所 都城発掘調査部
〒634-0025 奈良県橿原市木本町 94-1 <https://www.nabunken.go.jp>

石神遺跡 第1次調査区の再発掘

飛鳥藤原第214次調査 現地見学会資料

(独) 国立文化財機構奈良文化文化財研究所 都城発掘調査部



調査区から石神遺跡東方を望む
(南西から)

2024年3月31日撮影